令和５年度温室効果ガス排出量まとめ

１．温室効果ガス排出量について

平成27年度（基準年度）

総排出量：5,026.5 トン

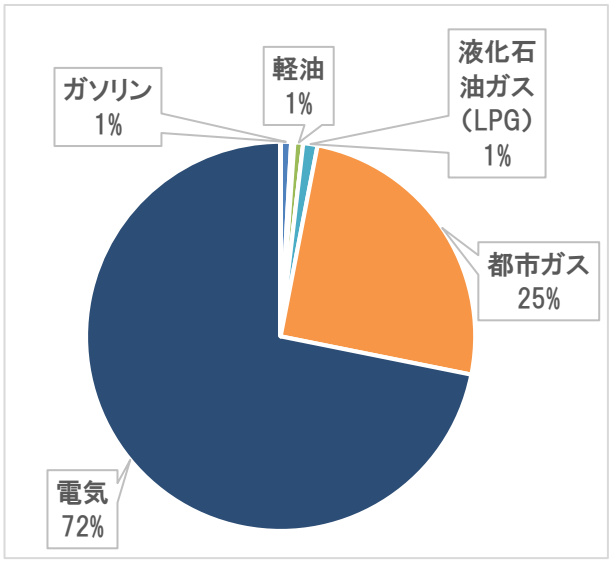
⇒

令和5年度

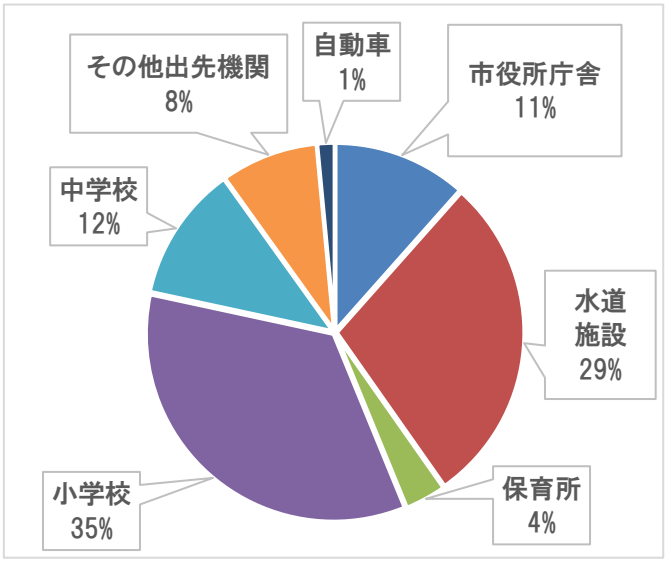
総排出量：5,242.8 トン

※平成 27 年度比 4.3%増加

■発生源別二酸化炭素排出割合



■施設別二酸化炭素排出割合



２．森林整備によるCO_2吸収量

森林整備面積：5.24ha

CO_2吸収量：24.4t ※小数点第２位を四捨五入している。

H27 年度比 5.4%増加

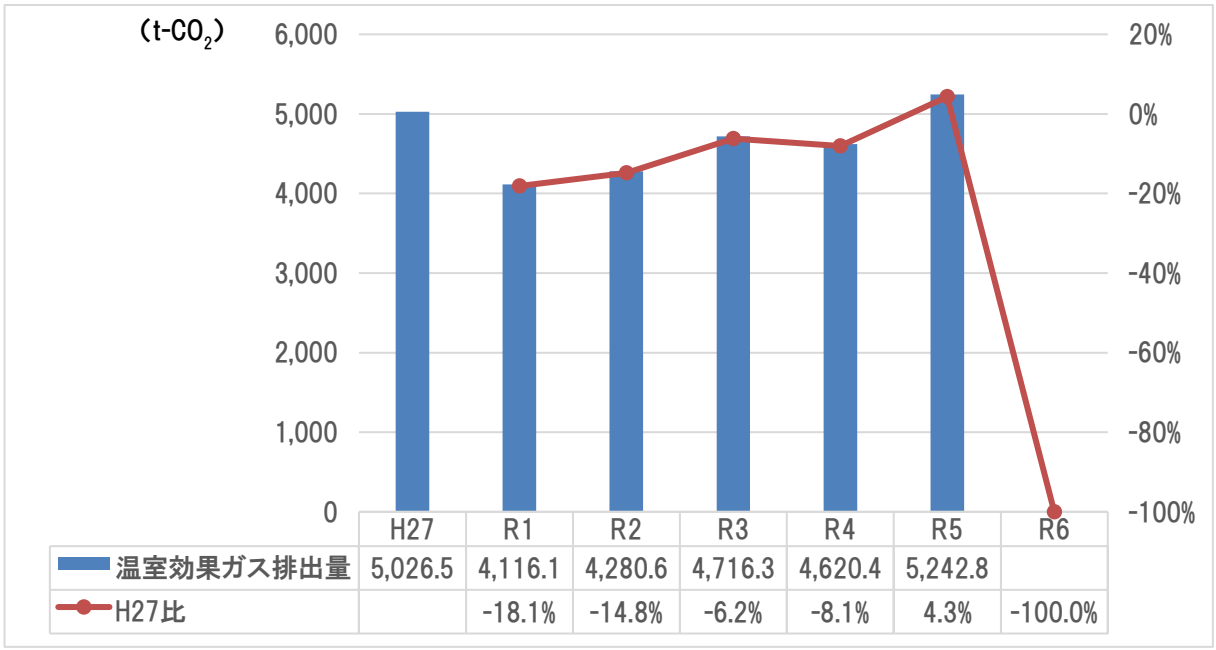
全体（総排出量 5,242.8t－森林吸収量 24.4t）＝5,218.4t

※平成 27 年度総排出量 4,952.2 t

かしこ暮らしっく 長岡京

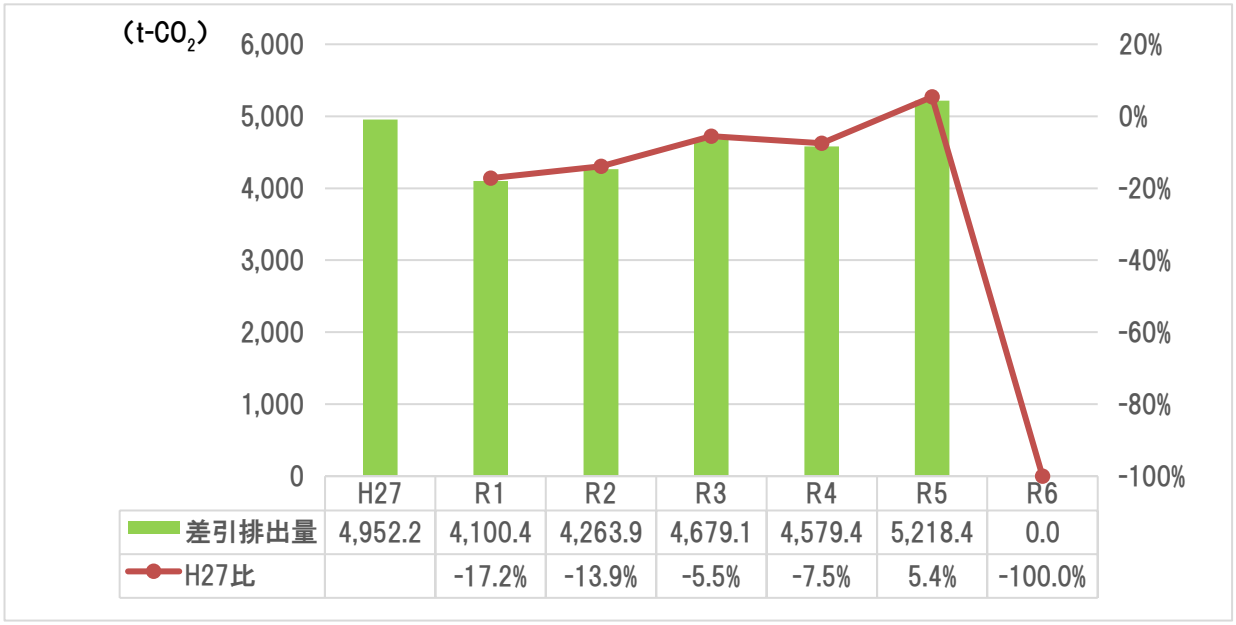
≪推移≫

① 温室効果ガス排出量推移



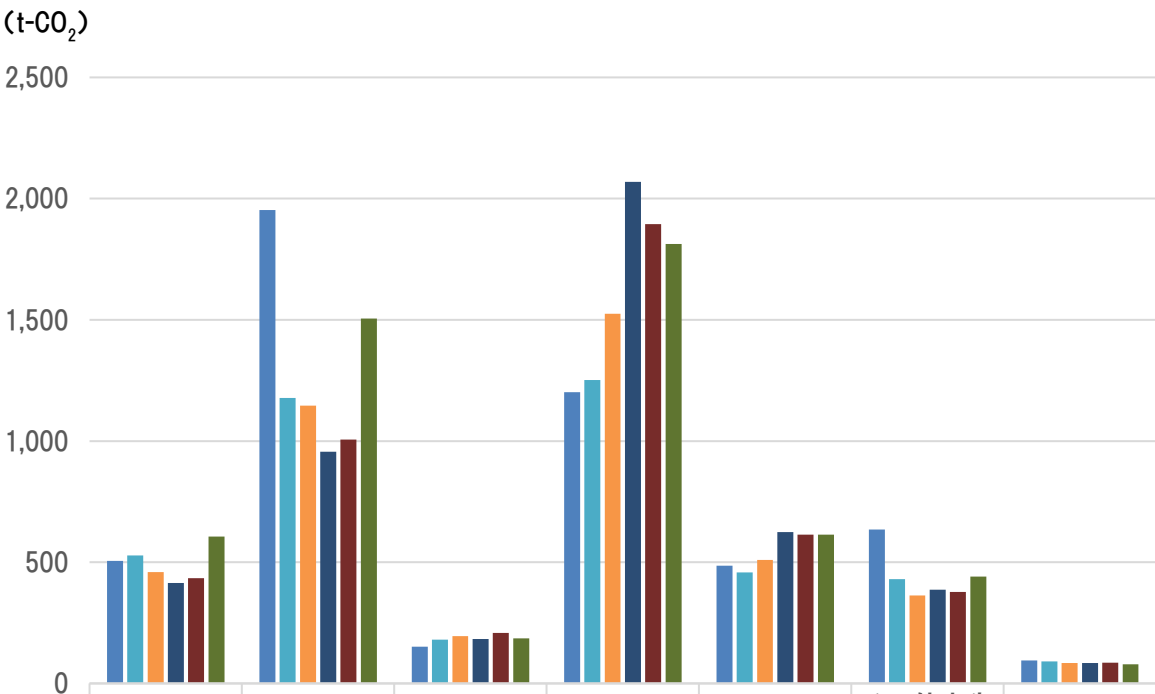
	H27	R1	R2	R3	R4	R5	R6
温室効果ガス排出量	5,026.5	4,116.1	4,280.6	4,716.3	4,620.4	5,242.8	
H27比		-18.1%	-14.8%	-6.2%	-8.1%	4.3%	-100.0%

② 温室効果ガス排出量（森林吸収量含む）推移



	H27	R1	R2	R3	R4	R5	R6
差引排出量	4,952.2	4,100.4	4,263.9	4,679.1	4,579.4	5,218.4	0.0
H27比		-17.2%	-13.9%	-5.5%	-7.5%	5.4%	-100.0%

③ 施設別の温室効果ガス排出量推移



	市役所庁舎	水道施設	保育所	小学校	中学校	その他出先機関※	自動車
H27	505.0	1,953.3	152.0	1,200.9	486.0	635.2	94.2
R1	527.7	1,177.6	181.3	1,251.1	457.7	430.4	90.3
R2	458.6	1,146.2	194.9	1,525.0	509.2	362.9	83.8
R3	414.1	955.7	182.7	2,069.5	624.2	386.0	84.1
R4	433.7	1,006.6	208.7	1,895.0	613.4	377.8	85.2
R5	605.7	1,504.7	186.4	1,812.6	614.4	440.6	78.4

※中央公民館、図書館、北開田会館、北開田児童館、老人福祉センター、保健センター、多世代交流ふれあいセンター

≪考察≫

令和５年度に市関係施設から排出された温室効果ガス排出量は、5,242.8ｔであり、第六次長岡京市役所地球温暖化防止実行計画の基準年度である平成 27 年度の温室効果ガス排出量 5,026.5ｔと比較すると、4.3%増加する結果となりました。

平成 27 年度と比較して温室効果ガス排出量が上がった最も大きな要因は、契約電力の排出係数が上がったことです。

前年度との比較で見ると、温室効果ガス排出量は、令和 4 年度 4,620.4ｔに対し、622.4ｔ増加しました。その内訳を発生源別に見ると、電気由来の排出量が、743.2

t-CO_2増と、他の発生源に比べ最も大きなウェイトを占めています。

さらに電気由来の排出量を施設ごとに見ると、東第２浄水場で特に増加しています。当該施設は電気使用量が特に多いため、排出係数増の影響も大きく受けることになりますが、それに加え、令和３年度から令和４年度にかけて実施された耐震化工事が完了し、揚水・浄水が再開され、電気使用量が丸一年間元の水準に戻ったことも要因です。令和４年度の４月及び５月は工事完了前であり、２か月の合計電気使用量が59,131kWhだったことに対し、令和５年度の同時期は265,639kWhでした。

また、本庁舎についても、令和４年度２月に新庁舎（第１期）の移転が完了しており、その後から電気使用量が増加しています。新庁舎（第２期）への移転に向け、電気使用量の推移を注視するとともに、引き続き適正な利用を継続する必要があります。

温室効果ガスの吸収源である西山の森林CO_2吸収量については、令和５年度整備面積5.24haに対し、24.44t-CO_2の吸収量が認定されました。森林吸収量を差し引いた後の温室効果ガス排出量では、基準年度の平成27年度が4,952.2t-CO_2であったのに対し、令和５年度は5,218.4t-CO_2となり、5.4%の増加となりました。

2050年ゼロカーボンシティを目指す市の行政として、今後も省エネ推進・再エネ導入の余地を探り、取り組みを着実に積み上げていく必要があります。